

## 京都府綾部市内唯一の酒蔵を、大手酒造会社OBが設立した 酒蔵支援会社が事業引継ぎ 第三者承継 <中小M&A>

～京都府金融・経営一体型支援体制強化事業(連携会議)との連携～

<<譲渡側(相談者)>> 若宮酒造株式会社(綾部市)

<<譲受側>> 夢酒蔵株式会社(京都市)

### 事業承継の経緯

若宮酒造株式会社は大正9年に三丹酒造(綾部市)を引継ぎ、現名称に改称、「綾小町」のブランドで地域に親しまれる綾部市唯一の酒蔵。令和6年3月1日に杜氏の木内康雄社長が酒造作業中に蔵内の事故により急逝され、たちまち若宮酒造は存続の危機に直面しました。

この状況を受けて、地元の金融機関、綾部商工会議所等支援機関で構成する京都府「金融・経営一体型支援体制強化事業(連携会議)」では、酒造りに向けて秋の仕込みに間に合うよう夏までに引受先に目途を付ける必要があるため京都府事業承継・引継ぎ支援センターに支援を要請しました。

### 支援(マッチング)の留意点

若宮酒造株式会社は、経営者兼杜氏の急死により、秋の酒仕込みが困難になっただけでなく、資金繰りが厳しく経営の危機にありました。その中で地域に親しまれた市内唯一の酒蔵の存続による事業継続の途を探るため、当センターと連携会議では以下の4つのポイントに留意し、第三者とのマッチング支援を行うことになりました。

①金融機関借入金の肩代わり(経営者保証の切り替え)、

②杜氏の手配、③雇用の維持、④商品ブランドの維持。

このほか、業歴の長い若宮酒造には多くの株主が存在していたため、株式の集約を急ぐ必要がありました。



地域に親しまれた若宮酒造(店舗)と「綾小町」



関係者による株式譲渡契約調印式/契約書を抱く若宮酒造の丸山さん(元専務取締役)と夢酒蔵の大邊社長(右)

### 【夢酒蔵株式会社】

夢酒蔵株式会社は、対象を酒蔵に特化したマネジメント・サポート・カンパニーとして、大手酒造メーカー出身のメンバーを中心に設立した会社です。特に後継者問題に悩む酒蔵へ様々な形でのサポートを行い、次世代へバトンを渡す役割を担っています。

### 成約に至ったポイント

若宮酒造の譲渡希望案件に十数社からの打診があった中で、最終的に夢酒蔵株式会社を選定し交渉に入りました。地域での存在意義を大切にする夢酒蔵の経営理念が、若宮酒造の思いと合致したことで、令和6年11月28日に成約に至りました。

### 当センターの支援

- ◇第三者承継(M&A)に向けた課題の抽出と解決方針の提示
- ◇課題解決に向けた専門家(弁護士)の紹介
- ◇マッチング支援と情報整理(情報漏洩対策)
  - ①秘密保持契約②情報提供・説明③現場視察(酒蔵)対応
  - ③質疑応答対応④社長面談(静岡県同行:故木内社長の親族と夢酒蔵(株)大邊社長の面談)
- ◇最終のスケジュール(紹介期限、意向表明書、最終交渉先連絡)
- ◇夢酒蔵(株)のデューデリジェンス立合い
- ◇株式集約のスケジュール管理(弁護士指示のもと)
- ◇株式譲渡契約までのスケジュール調整
- ◇株式譲渡契約書ドラフトレビュー
- ◇調印報告会の企画立案
- ◇プレスリリース調整・実行・取材対応
- ◇テレビ取材調整対応

### ひとこと

事業資金の困窮と時間的な制約という厳しい条件の中、7カ月という短期間で成約し、酒造りに欠かせない秋の仕込みも間に合わせることができたのは、夢酒蔵(株)という良縁に恵まれたこともさることながら、多くの支援機関の協力と同時に、地元唯一の酒蔵を残してほしいという地域住民の熱意が課題解決の要因だと確信しています。特に当地の各金融機関をはじめ京都府の金融・経営一体型支援体制強化事業に参画している支援機関と密接に連携したことが成約の道筋をつけたと言えます。



京都府事業承継・引継ぎ支援センター  
承継コーディネーター 梅原克彦